

アラブ首長国連邦、オマーンの植物誌（２）～サマーとガーフ

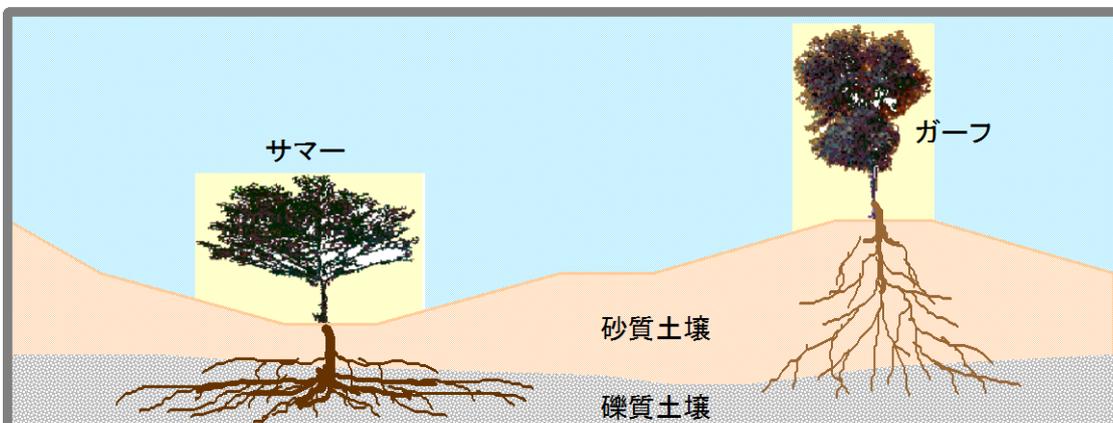
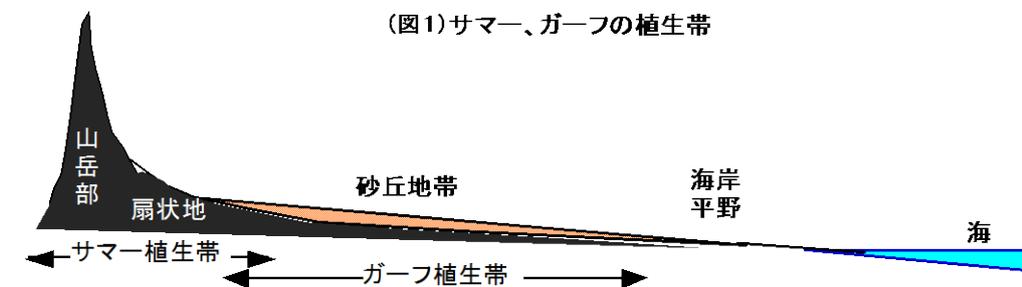
UAE、オマーンの代表的なマメ科の木本に *Acacia tortilis* と *Prosopis cineraria* があります。現地ではそれぞれサマー、ガーフと呼ばれています。サマーはアフリカのサヘル地帯に広く分布する通称テーブルツリーの *Acacia radianna* に非常に近い種で、恐らくアフリカ大陸からアラビア半島が分かれた以降に分離した種と考えられます。ガーフはアラビア半島からイラン、パキスタン、インドの乾燥地帯にかけて分布します。サマーは比較的降雨の多い山岳地帯（岩山）からそれに続く扇状地（礫原）に生育しガーフは更に下って主に砂丘地帯に生育します（図1）。

両種とも砂漠に生える貴重な木本で、特にガーフは砂丘地帯で唯一木陰を提供する木で、昔からベドウィンは好んでこの木の生えるところにキャンプを張ったそうです。ナツメヤシ、ラクダと並んでガーフ、サマーもこの地域の営みを支えていた大切な要素であったと言えるでしょう。それでは両種ともどのようにこの厳しい気候に適応しているのでしょうか。

まず、サマーが見られるのは山岳部、扇状地の非常に固い土質で、しかも降雨後の鉄砲水が根を洗うような場所に限られます。そのような固い地面に、根がそれほど深く張っているとは思われず、それは嵐の後サマーに限って根こそぎ倒れる事からもそんな想像ができます。またサマーの浅い根系では硬い土壌を掴むように張らなければ自立出来ず、砂丘地帯では具合が悪いでしょう。

サマーは冬季の降雨の後に新しい葉を出し生育します。サマーは主に冬季の雨が地表を濡らしその水に依存し、暑く長い乾季はひたすら耐えて過ごすタイプの植物と言えるでしょう。一方ガーフは砂丘地帯に深く根を張り（地下50mからガーフの根が見つかった。）、暑い盛りの6、7月に新葉をだし生育します。冬季の雨が地下に潜り、6、7月になって漸くガーフの生息する砂丘地帯に達するのでしょうか。サマーは強い耐乾性により、一方ガーフは根系を地下深く発達させることにより暑く長い乾季を生き抜くと考えられます。これは単に耐乾性で比較した場合、ガーフよりサマーの方が強かったという実験結果とも一致します。

同じような砂漠に生える木でもこの様に環境への適応の仕方は様々です。恐らく全く同じ性格の種は二つとして無いでしょう。しかし両種の、乾燥地への異なった適応の仕方はそれぞれ乾燥地への適応の代表的なタイプと考えられます。



(図2)ガーフとサマーが共存している場合、この様に根の分布域を分けていると考えられる。扇状地から砂丘が始まる辺りにこの様な植生帯が見られる。